

令和元年度越生町教育委員会事務局 点検評価報告書

～越生町教育振興基本計画の達成に向けて～



越生子ども未来大学
(手作りロケットを飛ばそう！！)



世界無名戦士之墓
(登録有形文化財に登録)

越生町教育委員会

令和2年8月

も く じ

1. はじめに	・ ・ ・ ・ ・ 2
2. 点検評価の対象及び方法	・ ・ ・ ・ ・ 2
3. 『越生町教育振興基本計画』の具体的な取組・施策	・ ・ 2
4. 取組・施策にかかる評価〔成果と課題〕	・ ・ ・ ・ ・ 3
I 学校教育の充実	・ ・ ・ ・ ・ 3
II 家庭・地域の教育力の向上	・ ・ ・ ・ ・ 11
III 生涯学習の推進	・ ・ ・ ・ ・ 17
5. 学識経験者からの意見並びに提言	・ ・ ・ ・ ・ 22

1. はじめに

この報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項に「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない」と規定されていることから作成しました。

越生町では、教育基本法第17条第2項に基づき『教育振興基本計画』を策定し、平成31年度から令和5年度までの5年間における教育の方向性を示しました。この自己点検評価の項目は、『越生町教育振興基本計画』の達成に向けて実施している各種事業の成果と課題について、点検及び評価としてまとめたものです。

2. 点検評価の対象及び方法

「学校教育の充実」「家庭・地域の教育力の向上」「生涯学習の推進」の3つの柱からなる『越生町教育振興基本計画』の具現化に向けて、平成31年度（令和元年度）越生町教育重点施策を策定し、その取組状況を点検評価しました。

また、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定に基づく、有識者の活用については、以下の学識経験者2名から御意見などをいただきました。

伊藤 明 氏	元公立小学校長、元川越市教育長
原 陽子 氏	元公立小学校長

3. 『越生町教育振興基本計画』の具体的な取組・施策

平成31年度（令和元年度）越生町教育重点施策

【学校教育の充実】

- 確かな学力と自立する力の育成
- 豊かな情操と健やかな心身の育成
- 学習環境の整備・充実
- 教職員の指導力向上

【家庭・地域の教育力の向上】

- 学校運営協議会制度の導入
- 越生町「3つの⑤」の推進
- 学校応援団活動の推進
- 家庭教育支援体制の充実
- 児童生徒の安心・安全の確保

【生涯学習の推進】

- 一芸・一スポーツ・一ボランティアの推進
- 越生が誇る歴史文化の継承と活用
- 生涯学習施設の環境整備

4. 取組・施策にかかる評価〔成果と課題〕

【Ⅰ 学校教育の充実】

（１） 確かな学力と自立する力の育成

① 具体的な取組

ア 2学期制や土曜授業日の特色を最大限に生かして、新学習指導要領に示された授業時間数を十分に確保し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。

イ 外国語活動や外国語（英語）の指導を強化し、具体的な目標をもって意欲的に学習に取り組めるように指導する。

ウ タブレットP C、電子黒板、大型テレビなどのI C Tを活用した多様な授業を展開し、学習内容の定着と学習意欲の向上を図る。

エ 人前で堂々とわかりやすく自分の意見を発表する力を育成するため、授業を核として指導の充実を図る。

オ 町費学習支援員や町独自の35人学級を生かし、学習室等を活用してティーム・ティーチングや少人数指導によるきめ細やかな指導を展開する。

カ 越生小学校と梅園小学校との合同行事や合同授業の取組を行い、お互いのよさを生かした小小連携を一層推進し、小中学校9年間の一貫した教育を推進する。

キ 夏休み前の学習成績や「家庭生活・家庭学習のすすめ」「より良い学習の進め方」などの学習リーフレットを活用し、家庭学習の習慣化を強化する。

② 取組の成果

ア 越生町では、2学期制や土曜日授業を行う中で、新学習指導要領が示す授業時間をしっかりと確保しながら、学校行事を減らさずに体験活動を充実させたりするなど、その特徴を最大限生かし、特色のある学校教育を展開してきました。3月の新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休校の影響で生じた欠課時数も3日間の授業日を設定することで、年度中の未履修部分がないようにすることができました。

また、各学校の授業研究や校内研修だけでなく、県主催の研修に教師が参加することで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をすすめています。

イ 新学習指導要領では、小学校3・4年生の外国語活動で35時間、小学校5・6年生の外国語（英語）で70時間増えますが、2学期制や土曜日授業の実施により十分対応することができますので、平成30年度から先取りして実施しています。その際、町費のA L Tを小学校2名、中学校1名配置し、日本の先生と外国の先生が一緒になって、外国語の授業を展開しています。

また、平成29年度より、越生中学校を会場とする実用英語技能検定「英検」を年3回実施し、年1回の検定料の半額補助を行っています。平成31年度より、対象を小学校5年生から中学校3年生としていたものを、小学校3年生から中学校3年生までと拡大しました。平成30年度は小学生のべ17名、中学

生のべ78名の合計95名の受検があったのに対し、令和元年度は小学生のべ31名、中学生のべ76名、合計107名の受検がありました。

ウ 各学校でタブレットPCや電子黒板、大型テレビを適宜活用しながら授業が展開されています。令和元年度に小学校のパソコン教室のパソコンを入れ替え、取り外しができ、普通教室でもタブレットとして使用できるものとなりました。動画視聴や動画撮影、調べ学習、発表する際のツールなどとして活用しています。

エ 学力・学習状況調査の質問紙から、越生町の子供たちは、友達の前で自分の考えや意見を発表することに苦手意識を持っていることが分かりました。そこで、タブレットPCなどのICT機器の活用とともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことで、子供たちが発表する場面に授業の中に適宜設定し、発表についての苦手意識を少しでも克服できるようにしています。

オ 梅園小学校第4学年は複式学級を避けるために町独自で単独学級を編成しました。そこで、町費学習支援員等を、越生小学校に3名、梅園小学校に2名、越生中学校に3名配置して、きめ細やかな教育の推進に取り組みました。少人数指導やティームティーチングなど、個々の課題に丁寧に対応できる指導体制を整えることができました。各学校の授業は大変落ち着いており、児童生徒は集中して学習に取り組んでいます。

カ 小学校間の連携については平成28年度末作成の「越生小・梅園小連携リーフレット」を活用しています。それぞれの学校の良さを生かした積極的な交流に努め、6年生は修学旅行、5年生は宿泊学習、4年生は体育、外国語の合同授業、3年生は梅もぎ体験、1、2年生は交流授業を実施しました。両校の児童は、小学校を卒業すると大部分が同じ越生中学校に進学しますので、早い時期から顔見知りになり、言葉を交わし、心を通わせ、思い出を共有することで、小学校から中学校への接続もスムーズになります。

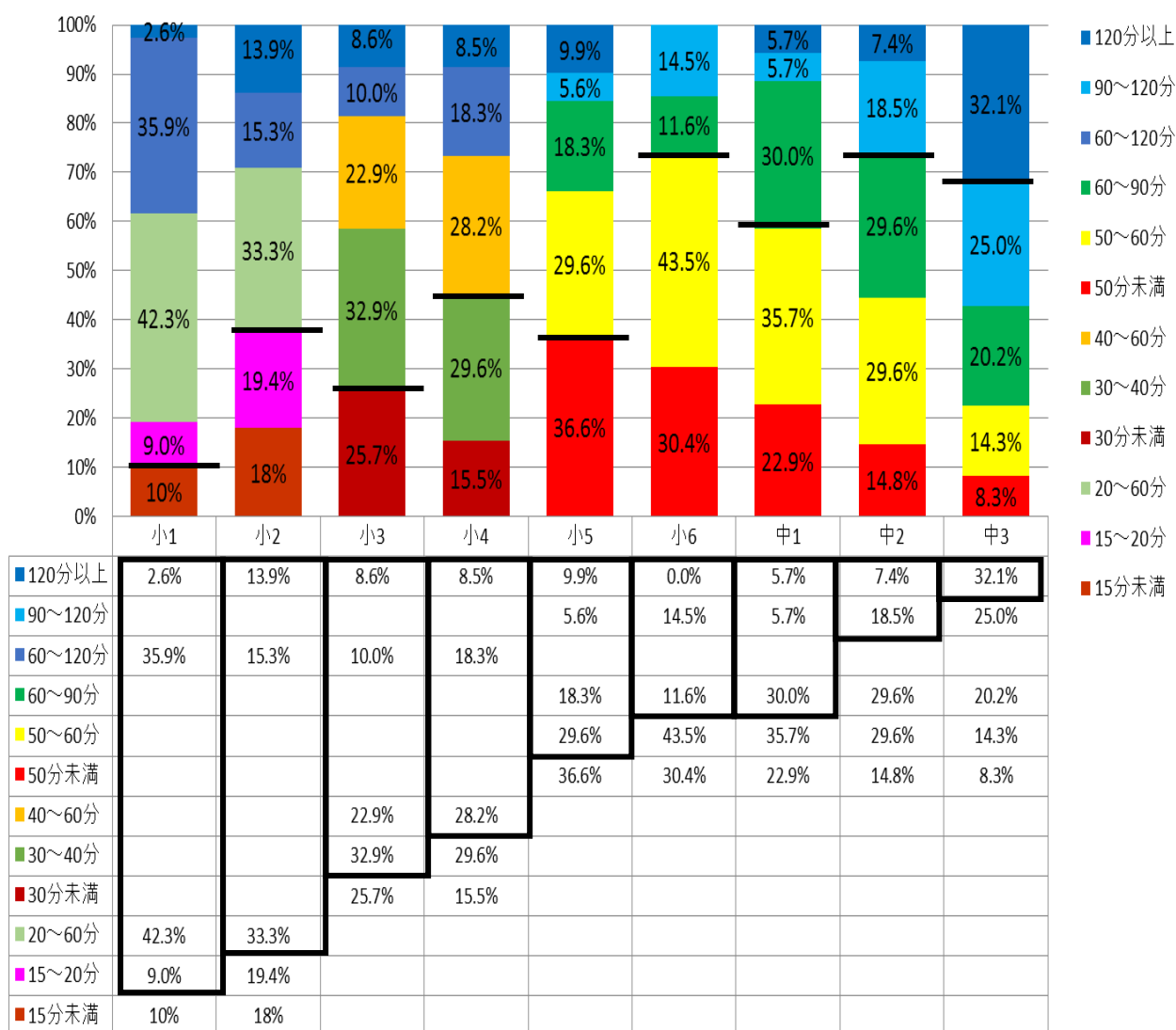
キ 児童生徒や家庭が長期休業の夏休み前に学習状況を把握し、夏休みの学習に主体的に取り組んでもらうため、夏休み前の学習成績表を配布しました。

また、家庭学習については、「家庭生活・家庭学習のすすめ」リーフレット、「より良い学習の進め方」リーフレットを活用し、繰り返し指導をしています。また、保護者会や学級懇談会でも、家庭学習の習慣化について協力をお願いしました。これらのリーフレットでは、家庭学習の時間の目安を、小学1年生は15分、小学2年生は20分、小学3年生は30分、小学4年生は40分、小学5年生は50分、小学6年生は60分、中学1年生も60分、中学2年生は90分、中学3年生は120分と設定しました。

家庭学習の時間の目安を越えている割合を平成30年度から令和元年度と比較すると、小学1年生で76.7%から90.0%、小学2年生で51.4%から62.5%、小学3年生で75.7%から74.4%、小学4年生で47.2から55.0%、小学5年生で60.8%から63.4%、小学6年生で22.8%から26.1%でした。中学1年生では67.8%から41.4%、中学2年生では22.5%から25.9%、中学3年生では41.9%

から 32.1% となり、3 分の 1 の学年で割合が増加していることから、家庭学習の定着への取組に一定の効果が見られる結果となりました。毎日の勉強時間の割合を示したグラフは、次のとおりです。

毎日の勉強時間



—— 各学年の学習時間の目安

③ 今後の課題

令和 2 年度の小学校、令和 3 年度の新学習指導要領の完全実施に向け、履修漏れがないなどの着実な計画の実行が求められます。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図っていくことで、越生町の子供たちが苦手意識をもっている「人前で堂々と分かりやすく自分の意見を発表する力」を育成できたり、家庭学習を主体的に取り組むことで定着を図ったりすることができると考えます。

また、G I G A スクール構想の実現に向け、1 人 1 台のパソコンで展開される授業で、学習内容の定着や学習意欲の向上が図れるよう体制を整えてまいります。

(2) 豊かな情操と健やかな心身の育成

① 具体的な取組

- ア いじめを許さない意識の醸成と人権を尊重した教育を推進する。
- イ 小中学校9年間を見通した継続的な生徒指導を実践し、不登校ゼロやいじめ解消100%を目指して取り組んでいく。
- ウ 不登校やいじめの解消に向け、スクールカウンセラー、さわやか相談員及びスクールソーシャルワーカー等、関係諸機関との連携を図り対策を強化する。
- エ 道德の教科化の趣旨を生かし、道德的实践を促す指導を充実する。
- オ 越生町ならではの地域の教育力を活用した体験活動に取り組む。
- カ 体力の向上を目指し、たくましさや粘り強さを養う体育活動を推奨する。
- キ 生活習慣の改善や課題に向けた取組の強化を図り学校体育活動を推進する。
- ク 自校給食の特性を生かし、地産地消を進め、地域への関心を高める。
- ケ 学校給食を核に家庭や地域と連携して望ましい食習慣の確立を図り、食育を推進する。

② 取組の成果

ア 各学校とも、道德授業を核として、学校行事や部活動、その他様々な体験活動を通して豊かな人間性の育成を図っています。個人面談や家庭訪問、いじめアンケート等を計画的に実施し、児童生徒の状況を適切に把握しながら、実態にあった指導に努めています。人権教育については、例年通り人権教育週間を設定して集中的に様々な人権問題について考え、作文を書きました。内容の充実した作文が多くあり、令和元年度は越生小の児童作文が西部地区人権教育実践報告会で発表されました。そして、教職員自らも、夏季休業中に全員研修会を開催し、同和問題について研修しました。また、各学校は、管理職を中心に生徒指導部会や教育相談部会を組織し、全ての子供たちが生き生きと学校生活を送れるよう、積極的な生徒指導を推進しています。子供たちは、落ち着いて毎日の学校生活を送り、授業をはじめ、様々な活動に集中して取り組むことができます。子供たちが作り上げる合唱、美術や書道などの作品は、見る者に感動を与え、子供たちの純粋で前向きな気持ちが伝わってきます。

イ 令和元年度当初に「越生町小中一貫教育」のリーフレットをリニューアルし、その活用を図っています。豊かな心の育成については、目指す越生町の子供像を「思いやりや感謝の心を持ち、規律ある生活ができる子供たち」といたしました。

越生町の不登校児童生徒の状況は、減少しているものの、未だ喫緊の課題となっています。不登校ゼロに向けて、継続して取り組んで参ります。また、いじめの認知件数は、いたずらやからかい等が数件報告されていましたが、定期的にアンケート調査を行い、解消の確認に努めています。今後も校内の生徒指導組織の充実を図るため、小中学校が連携しながら、義務教育9年間を見通した継続的な生徒指導を、越生町生徒指導委員会を中心に行います。

ウ 不登校の解消には関係機関との連携が重要です。そこで、越生町生徒指導委員会で、各学校の生徒指導主任やさわやか相談員で情報交換を行いながら、小中連携を図りました。また、適宜スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、町の子育て支援課と情報共有を図りました。

エ 小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から、道徳の教科化が始まりました。各学校では校内研修や県の研修会などを中心に、研修を行いました。今回の教科化に伴い、「考え、議論する道徳」がポイントとなっていることから、読み物資料の登場人物の心情理解のみでなく、教材に含まれている道徳的問題について話し合いをして道徳的価値を追究していくように、各学校で授業改善を行っています。

オ 越生町の特色を生かした体験活動としては、両小学校が実施している、龍穏寺や如意観音、大クス、大満浄水場等の見学があります。さらに、平成28年4月、豊かな自然と歴史・文化などの観光資源を活かして、越生町が全国初のハイキングのまちを宣言しましたので、こうした視点も加え、ふるさとの良さを一層実感できる学習が展開されています。その他、越生小学校と梅園小学校が、合同で、越生町の特産である梅もぎ体験を行いました。子供たちは学校に戻り、梅ジュースを作ったり、梅干し作りを行ったりもしました。

越生中学校では、文化祭（光耀祭）で地域の方々に講師を依頼し、お囃子やうどん作りなど、様々な体験学習を行っています。子供たちには、自分たちの住む越生町の良さや素晴らしさを改めて知る良い機会となり、地域の方々との触れ合いも大変貴重な時間となりました。

また、地域の教育資源を活用し、様々な体験を通して、科学的思考力や芸術性の素地を伸ばしていくことを目的とした「越生子ども未来大学（第3期）」を行いました。

カ 新体力テストの結果は、総合得点によって、AからEの5段階にわけられ、埼玉県では、A+B+Cの人数の割合を、小学校80%以上、中学校85%以上を目標としています。越生町の実態は次の通りです。

越生町	A	B	C	D	E	A+B+C
小学校	35.2%	32.1%	23.2%	6.9%	2.6%	90.5%
中学校	32.3%	37.5%	18.1%	10.3%	1.7%	87.9%

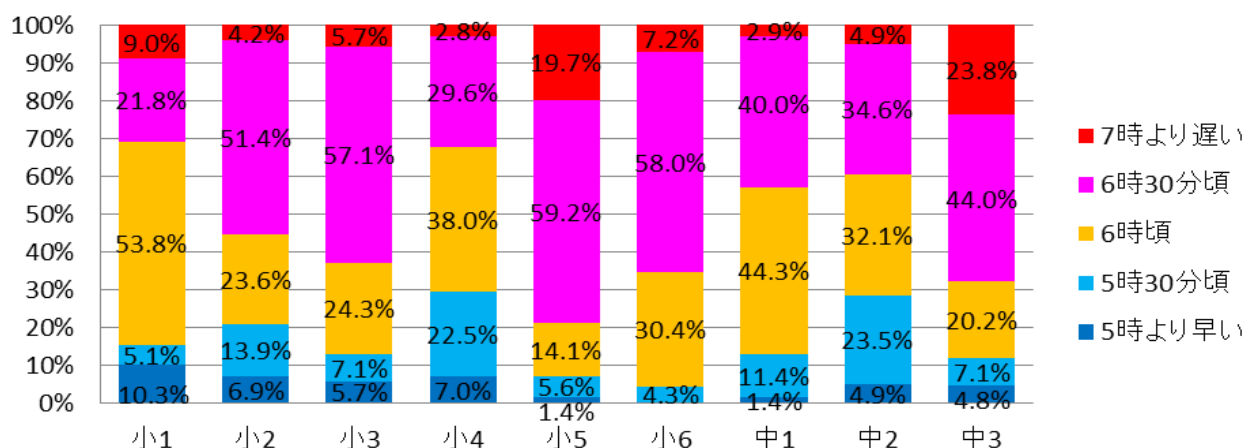
令和元年度「新体力テスト」 [%]

小中学校、いずれも埼玉県が目標とする数値を上回っています。特に小学校では、県の目標を大きく上回ることができました。小学校では、朝マラソンや外遊びの奨励、中学校では運動部活動や駅伝部の活動などが、大変有効であると考えられます。こうした取り組みは、体力の向上のみならず、何事にも積極的に挑戦し、決してあきらめないたくましさを育む良い機会にもなっています。これまで、梅園小学校（平成23～28年度の6年連続）と越生中学校（平成27、28年度の2年連続）は埼玉県体力向上優良校として表彰されたこともあり、こうした日ごろの地道な取り組みが、外部からも高く評価されています。

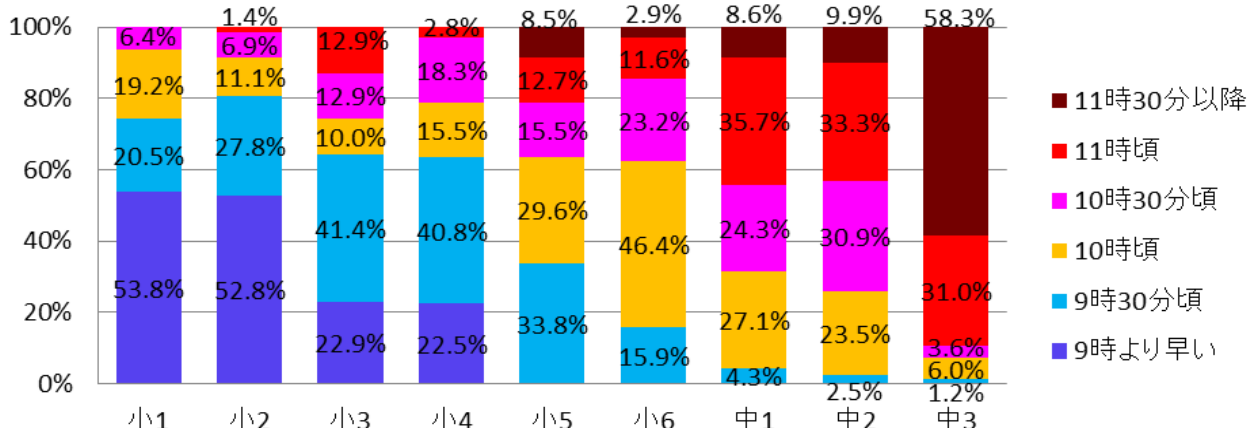
キ 生活習慣については、次のアンケートから、学年が上がるにつれ、就寝時刻が遅くなり、睡眠時間も減っていることが分かります。

令和元年度当初に「越生町小中一貫教育」のリーフレットをリニューアルし、その活用を図っています。リーフレットのなかで、睡眠時間については、小学1～4年生で9時間程度、小学5～中学1年生で8時間程度、中学2、3年生で7時間程度を目標としています。「学習時間」や「読書時間」、「テレビ、ゲーム、インターネットをする時間」などとの関連性を調べ、町の体力向上推進委員会を中心に、家庭と連携した対策を考える必要があると思われます。

学校のある日の起きる時刻



学校のある日に寝る時刻



ク 越生小学校・越生中学校は自校給食、梅園小学校は越生小学校で調理したものを運ぶ親子給食となっています。

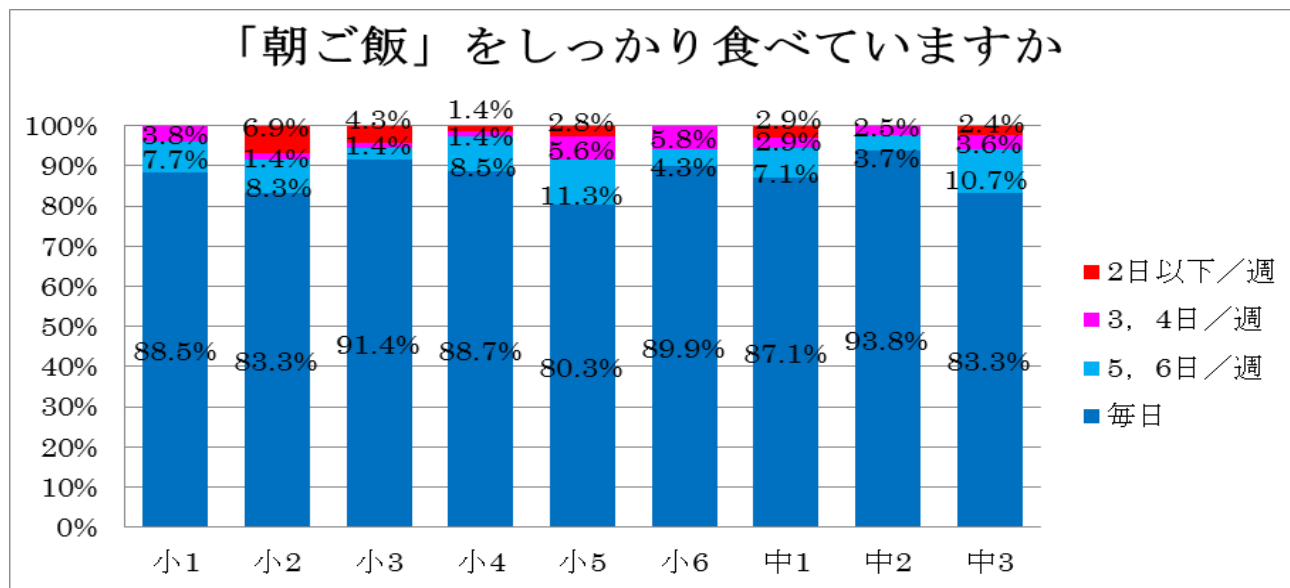
平成29年度は第12回全国学校給食甲子園で優勝を果たしました。栄養教諭と調理員のチームワークと越生町の特色ある給食が全国に認められました。

一方、地場産物の活用状況は、令和元年11月の調査では、32.4%（平成30年11月調査は、23.5%）でした。県は、30%以上を目標値としていることから、栄養教諭を中心に、年々地場産物の活用が進んでいる状況が

伺えます。

ケ 食育の推進については、アンケートから、越生町の児童生徒の約 87.4%が毎日欠かさず朝食をとっており、週に 5、6 日は食べるという者も含めると 94.6%を超えます。本人そして家庭の、食に対する理解はとても進んでいることが分かります。

しかし、各学年とも、朝食を食べずに登校する児童・生徒がいるので、今後その理由を把握し、対応する必要があると思われます。



③ 今後の課題

越生町の児童生徒の豊かな情操と健やかな心身は着実に育まれていると思われます。今後も人権感覚の育成や積極的な生徒指導など、小中 9 年間の一貫した教育をさらに推進することが重要になってくると考えられます。また、運動や食事、睡眠など、望ましい生活習慣を確立することが何よりも重要であり、学校と家庭、地域の連携がますます重要になってくると考えられます。

一方、不登校の解消に向け、小中学校と関係機関との連携について、より一層の強化が必要であると考えます。適応指導教室の相談員の配置を充実させるなど、相談体制の充実を図ってまいります。

(3) 学習環境の整備・充実

① 具体的な取組

ア 安全・安心で快適な学校を目指し、施設・設備の計画的な改修を図る。

イ ICTを活用した情報活用能力の育成のための環境を計画的に整備する。

ウ 各地区の育成会等と連携した長期休業中の学習の場の設定や充実を図る。

エ 少子化への対応や英語教育の改革などの学習指導要領改訂に向け、計画的に準備していく。

② 取組の成果

ア 施設設備の計画的な改修については、老朽化している越生小学校のトイレ改修に向け、工事の設計、梅園小学校の体育館屋根漏水により、防水塗装工事を行いました。

今後も、各学校の安全・安心を確保するため、学校と連絡を密に取り、現状を確認しつつ優先順位を決め、適切に対応してまいります。

イ ICTの整備については、国から指針（GIGAスクール構想）が出され、計画的な整備が必要になります。（学習者用コンピュータは1人に1台度整備など）平成30年度にタブレットPC36台を導入し、各学校での活用が始まりました。令和元年度は、小学校のパソコン教室のパソコンを入れ替え、取り外しができ、普通教室でもタブレットとして使用できるものとしたしました。

ウ これまで、上野一区子供会育成会で夏休みの勉強会が行われていました。そこで、各地区の育成会に協力していただき、8月19日から5日間、梅園小学校、越生小学校、上野一区公会堂、やまぶき公民館、地域交流センターの5会場において、サマースクールを実施しました。各小学校で算数のテキストを作成し、のべ728名の小学生が参加しました。夏休みの学習の場を充実させることができました。

エ 学習指導要領が改訂されたことに伴い、県が中心となり、その説明会が行われました。また、各教科等の研究会でも研修が行われ、新しい学習指導要領に対する教員の理解も進んでいます。英語教育の改革に向けては、平成30年度から先取りして新しい学習指導要領に沿った内容を実施しています。その際、町費のALTを小学校2名、中学校1名配置し、日本の先生と外国の先生が一緒になって、外国語の授業を展開しています。

③ 今後の課題

安全・安心で、子供たちが主体的に学習に取り組める学習環境の整備については、各学校との情報交換や実態把握を適切に行い、教育委員会施策や予算との兼ね合い等を勘案し、今後も計画的に進めてまいります。特にGIGAスクール構想の実現に向けて、コンピュータの整備については計画的に進めてまいります。さらに、越生町の強みでもある地域の力を最大限に生かし、町ぐるみで子供たちを育てていけるよう取組を工夫していきたいと考えてまいります。

（４） 教職員の指導力向上

① 具体的な取組

ア 課題の発見・解決に向けた主体的・対話的で深い学び等の視点を取り入れた授業が実践できる指導力を身に付ける。

イ 越生小学校、梅園小学校、越生中学校の3校が、「知・徳・体」の9年間を見通した小中一貫教育を推進するために連携を図る。

ウ 全教職員を対象に3校合同研修会を実施し、テーマに沿った研修を実施する。

② 取組の成果

ア 主体的・対話的で深い学び等の視点を取り入れた授業の実践力を高めるため、梅園小学校で西部教育事務所及び近隣市町の指導主事を招聘し、学校指導訪問を、越生小学校、越生中学校では、西部教育事務所の指導主事を招聘し、校内研修等の充実のための支援訪問を実施しました。

また、課題の発見・解決に向けた授業を展開するために、平成27年度から4年間、国立教育政策研究所の委嘱を受けた研究で培ったノウハウを町の学力向上推進委員会等で共有してまいります。

越生町は学校数が少ない分、県が主催する様々な分野の研修会に参加する機会が設けられています。さらに越生町教育委員会による研修会、指導主事が学校に出向いての校内研修や授業研究など、教員のニーズに合わせた研修を充実させてまいります。

イ 学力向上推進委員会、生徒指導委員会、体力向上推進委員会において、「知・徳・体」の9年間を見通した小中一貫教育の推進について協議を行いました。その他、小中連絡会、小小連携会議などを行い、小中発達の段階における児童生徒の指導について情報交換や連携を図っています。

ウ 夏季休業中に、町教育委員会が主催の3校合同研修会を実施しました。前半は同和問題に特化した人権教育の研修を指導主事が講師となり研修を行いました。後半は前述の小中一貫教育について、リニューアルした「越生町小中一貫教育リーフレット」の活用について、全教職員で現在の子供の実態を踏まえた検討を行いました。

③ 今後の課題

教職員は誠実に職務に臨み、自らの指導力を磨くために地道に努力をしています。児童・生徒も落ち着いて授業に臨み、理解を深めようと頑張っています。お互いの信頼関係がしっかりと構築されており、子供たちの学力や体力、豊かな人間性の育成について、とても大きな成果をあげていると考えられます。

また、人事評価制度を適切に運用しながら、適切な目標設定と地道な実践、管理職や教育委員会による指導の充実に努め、さらに一人一人の教職員の指導力向上と学校の教育力向上を図ってまいります。

【Ⅱ 家庭・地域の教育力の向上】

（１） 学校運営協議会制度の導入

① 具体的な取組

ア これまでの取組を継承しつつ、学校・家庭・地域がさらに一体となった教育を実現するための組織づくりに努める。

イ P T A活動を支援し、保護者と教職員の連携のとれた活動を推進する。

② 取組の成果

ア これまで試行的に実施してきた学校運営協議会制度を正式に立ち上げました。令和元年度は年間３回の協議会を実施しました。

校長が作成する学校運営の基本方針を承認いただき、学校長の学校経営方針に基づき、学校運営が行われています。学校経営がより充実し、結果として子供たちのよりよい成長が期待できるものと考えています。

イ 各学校では、様々なＰＴＡ活動が展開されています。子供たちのために、協力できる範囲で保護者と教職員が連携して活動しています。教育委員会としてもＰＴＡ総会に参加するなどして活動状況を把握しながら、その活動を支援してまいります。

③ 今後の課題

越生町には、子供たちのために惜しみなく力を貸していただける方々が、たくさんいらっしゃるので、各校とも取組が充実しています。

学校運営協議会では、これまで取り組んできた地域連携の流れを継承しながら、越生町ならではの学校運営協議会の在り方を検討してまいります。

（２） 越生町「３つの㊟」の推進

① 具体的な取組

ア 越生町・越生町教育委員会が推進する「３つの㊟」のリーフレットを活用し、子供の発達の段階に応じて取り組む。

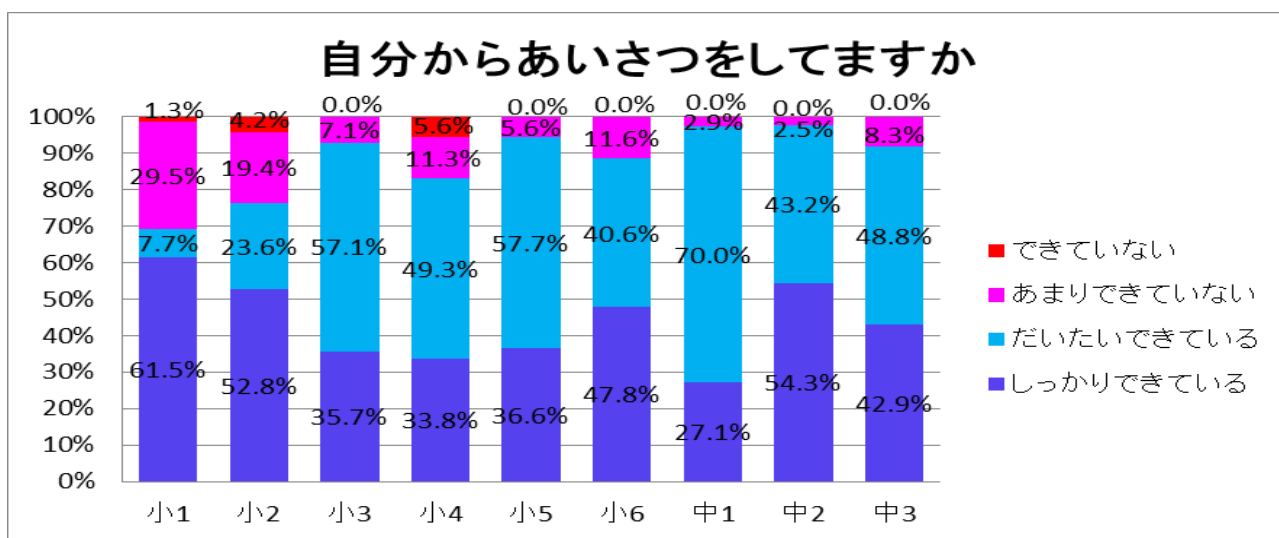
イ 学校・家庭・地域が連携し、様々な機会を捉えて「３つの㊟」を励行する。

② 取組の成果

小学校の新入生や町内の幼稚園、保育園の新入児の保護者へリーフレットを配布し、啓発を行いました。

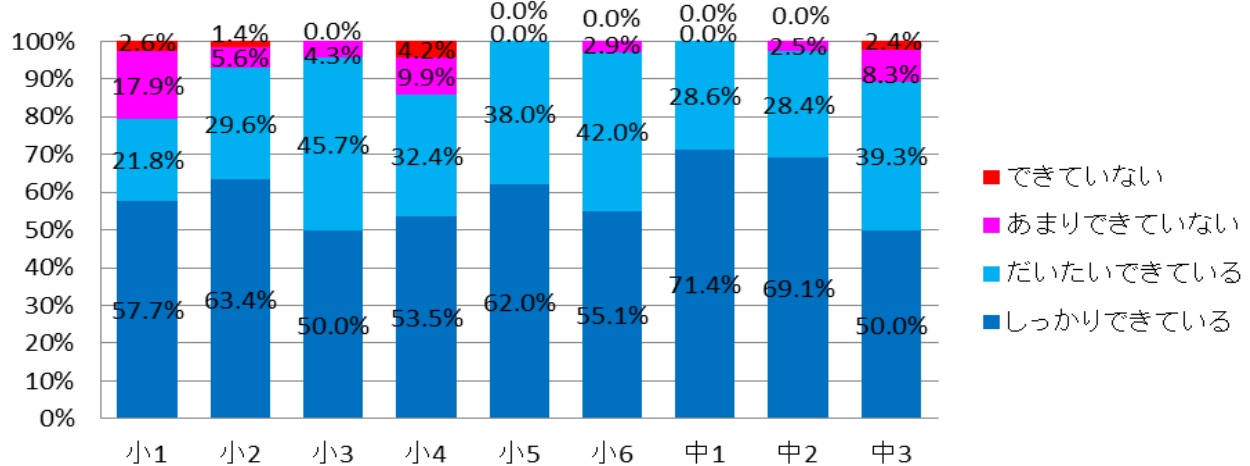
また、児童生徒に、越生町「３つの㊟」に関する意識調査を行ったところ、次のようになりました。

※〔 〕は「できている」と答えた割合（H29・H30・R1）



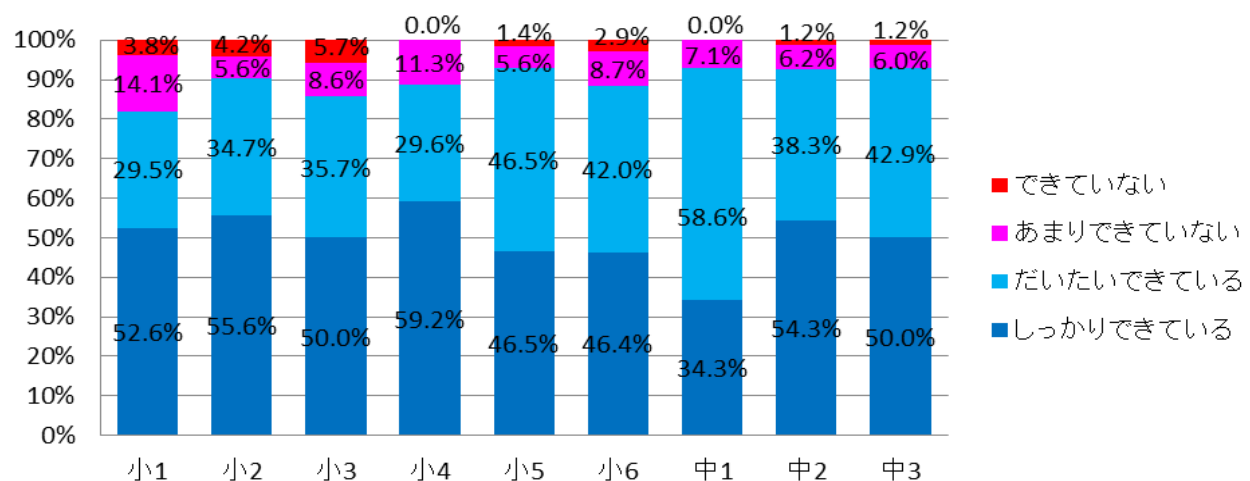
〔 H29 87.0% → H30 88.8% → R1 87.8% 〕

近所の人に挨拶をしていますか



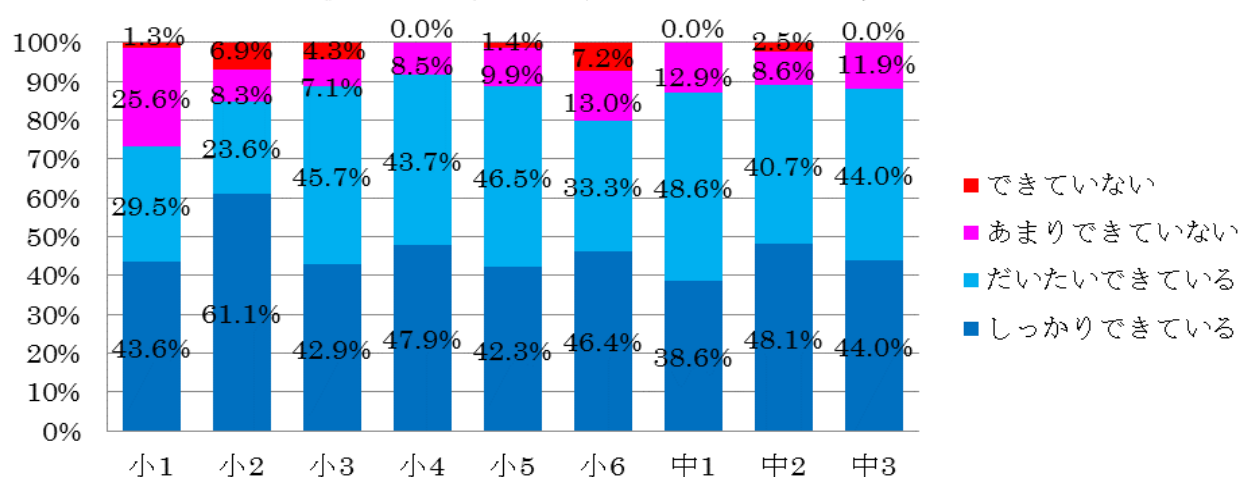
[H29 89.0% → H30 87.5% → R1 92.8%]

脱いだ靴をそろえていますか



[H29 83.4% → H30 86.3% → R1 88.9%]

使った物は片付けていますか



[H29 81.7% H30 83.5% → R1 85.6%]

いずれの項目も8割以上の児童生徒が「しっかりできている」「だいたいできている」と回答しています。平成29年度からの比較では、いずれも達成状況が伸びています。児童生徒の生活規範にかかる意識は、全体的に高いことがわかりますが、個別対応が必要な児童生徒もいますので、家庭の協力も得ながら丁寧に指導してまいります。

③ 今後の課題

越生町「3つの⑥」の取組は、日頃の生活の中で基本的な事項です。あいさつをすることも、靴をそろえることも、後かたづけをすることも、全ての児童生徒にとって習慣となり、できて当たり前と感じられるようになるまで、引き続き指導の充実を図りたいと思います。先に述べましたとおり、全体的にはとても高い達成率を示していますが、個別にはさらに指導が必要な児童生徒がいます。家庭と連携し、指導場面を具体的にしながら、継続的に指導をしてまいります。

そして、学校、家庭、地域が一体となって越生町「3つの⑥」をさらに推進し、町全体で高い生活規範を大事にしていけるよう、教育委員会から情報発信していきたいと考えます。

(3) 学校応援団活動の推進

① 具体的な取組

ア ボランティアとして学校への協力・支援を行う保護者・地域の力を応援する。

イ 学校応援団活動を充実させ、登下校の安全確保や学習のための環境整備を図り、学校・家庭・地域が一体となった教育を推進する。

② 取組の成果

ア 体験活動を充実させるために、梅もぎ、梅干しづくり、学校ファームの活動を支援する人材の紹介や体験活動の協力を行いました。

イ スクールガードリーダーを中心に、登下校の安全確保に努めています。また、学習のための環境整備として、夏休みのサマースクールでは、育成会や学生のボランティアを41名依頼し、児童の学習補助を行いました。特に学生ボランティアは、越生町の卒業生ということもあり、地元とのつながりを意識した支援を行ってまいります。

③ 今後の課題

学校応援団活動を推進するには、学校と家庭、地域が、それぞれの役割をしっかりと果たし、互いに連携・協力していくことを基本として、教育委員会事務局もそれらの連携にあわせた支援を行うことが重要です。学校・家庭・地域が一体となった教育を今後さらに充実させてまいります。

(4) 家庭教育支援体制の充実

① 具体的な取組

ア 「家庭生活・家庭学習のすすめ」「より良い学習の進め方」のリーフレットを活用し、学校と家庭が協力して児童生徒の基本的な生活習慣や家庭学習習慣を身に付けさせる。

イ 家庭教育アドバイザーの活用、民生・児童委員との連携、保護者会の工夫等により、発達の段階に応じた「親の学習」の機会を増やし推進する。

ウ 越生子ども未来大学及びサマースクールを実施し、地域の教育力を生かした越生町ならではの学びの場をさらに充実させる。

② 取組の成果

ア 「家庭生活・家庭学習のすすめ」「より良い学習の進め方」については、全児童生徒にリーフレットを配布し、指導を行っています。保護者会や学級懇談会でも家庭学習の習慣化についての協力をお願いしました。

イ 就学時検診に合わせ、校長が講師となって行う教育講演会を実施しました。小学校とはどんなところか、小学生になる子供を家庭がどのように見守り、育てていくかを学びました。中学校でも、学校説明会に合わせて、校長及び担当教員による講話がありました。中学校生活についての説明を受けた後、中学生の保護者としての姿勢や態度について学びました。その他、各学校が実施するふれあい講演会等に保護者も一緒に参加をしたり、PTA家庭教育学級で講演会を実施したりするなど、様々な機会を通じて、子育てについて学習しました。

ウ 越生町の教育資源を活用し、様々な体験を通して、科学的思考力や芸術性の素地を伸ばしていくことを目的とし、宇宙や音楽など6分野から全12講座を開講して「越生子ども未来大学 越生（第3期）」を行いました。子供たちは普段できない体験に触れることができ、満足度の高い取組となりました。

実 施 日	講 座 名	実施会場	参加
7月 7日（日）	今宇宙がおもしろい	越生町中央公民館	23人
7月13日（土）	漂流物で宝物を作ろう！	越生町中央公民館	28人
7月15日（月）	越生町のホタルと発光のしくみ	梅園コミュニティ館	21人
7月27日（土）	なんでもたたけばリズムができる！	やまぶき公民館	21人
7月30日（火）	圧力の不思議を調べよう	越生小学校	22人
8月 1日（木）	英語で遊んでみよう！	中央公民館体育館	38人
8月 3日（土）	越生町のチョウと体が水にぬれないしくみ	梅園コミュニティ館	16人
8月 4日（日）	手作りロケットを飛ばそう！	越生中学校ランチルーム	63人
8月 6日（火）	和太鼓って楽しいぞ！	越生中学校ランチルーム	37人
8月 8日（木）	巨大風船を作って遊ぼう！	中央公民館体育館	48人
8月22日（木）	クルマはなぜ動くの？クルマってすごいね!!	清和学園高等学校	40人
8月23日（金）	おかしのふしぎ	清和学園高等学校	19人

③ 今後の課題

子供たちを育成するには、学校と家庭、地域が、それぞれの役割をしっかりと果たし、互いに連携・協力していくことが重要です。学校教育の充実、地域の教育力向上と合わせ、家庭教育支援についても、首長部局の関係各課とも積極的に連携し、今後さらに充実を図ってまいります。

家庭教育については、各家庭・各保護者に委ねられる部分が多く、価値観や環境の違いによって大きく異なります。子育てで悩んだり困ったりしたときにも、なかなか相談できる相手も見つかりません。しかし、家庭こそが子育ての原点でもあるため、家庭教育に対する支援は必要であり、とても重要であります。こうしたことから、子育てと教育のまちに相応しい充実した家庭教育支援の在り方を、今後も検討してまいります。

(5) 児童生徒の安心・安全の確保

① 具体的な取組

- ア 通学の安全のため、中学生の自転車通学者はヘルメットを着用する。また、小学生が自転車に乗る際には、ヘルメットを着用することを奨励する。
- イ 通学路の危険箇所を点検し、関係各課と連携を図りながら安全を確保する。
- ウ 児童生徒に情報モラルを身に付けさせ、適切に活用できるようにするための学習活動を充実する。
- エ スクールガード（見守り隊）の協力や子供110番の家との連携を図り児童生徒の安全を図る。
- オ 学校ごとに活用できる「一斉メール配信」を活用し、防犯情報等を適時適切に保護者に周知できるようにする。

② 取組の成果

- ア 保護者の要望により、平成28年度から越生中学校の生徒全員に通学用ヘルメットを給付しています。小学校の卒業記念品として贈呈しています。越生中学校生徒は、ほぼ100%自転車通学ですが、自転車のマナーもよく、登下校しています。また、小学生については、平成29年度の子ども議会による提案により、自転車に乗る時にはヘルメットを着用することとしています。
- イ 保護者による登校指導は、毎年、多くの方々が参加してくださっています。あいさつ運動も兼ねて、ほぼ毎朝、子供たちの登校を見守ってくださる方もいらっしゃいます。地域の見守りボランティアの皆様も、見守りを行ってくださっています。また、教職員は、毎月定期的に行っている登校指導の他、天候や危険情報に合わせ、適宜見回りを行っています。その中で把握した通学路の危険箇所についての学校や地域からの情報は、教育委員会でも共有し、迅速に関係各課と連携を図りながら通学路の整備を行ってまいります。
- ウ 情報モラルについては、各学校の教科等で指導しています。特に、その危険性が度々話題になるSNSについては、各学校で児童生徒・保護者を対象に実施している情報モラル教室の他、子供会育成会の協力で、「ネット社会での子育て」について、毎年講演会を開催しています。

エ 児童・生徒の登下校の見守り活動は、越生地区、梅園地区のそれぞれに1名ずつ配置したスクールガードリーダーを中心に行っています。両名とも、年間約200日活動しています。9月には、スクールガード養成講座を開催し、各小・中学校の安全教育担当教員、PTA役員、学校応援団、見守りボランティアなどが参加しました。西入間警察署から地域の防犯情報や具体的な対策についてなど御指導いただき、スクールガードリーダーからは、活動報告とさまざまな情報提供がありました。

「こども110番の家」は、令和元年度末で町内に115軒あり、標識を掲示していただくことで、不審者に声をかけられたりした際には子供たちが安心して駆け込むことができるよう、準備をお願いしています。さらに、小学校の低学年を対象には「こども110番の家」への利用に関する指導を行い、登下校途上での避難場所として効果的に利用するように努めてまいります。

オ 各学校で活用できる「緊急時連絡メール配信サービス」を平成29年度末に整備しました。地震や台風、積雪等による急な日課変更や防犯情報等を速やかに配信し、児童生徒の安心安全のために活用することができました。

③ 今後の課題

子供たちの安全は、何よりも最優先されるべき最重要課題であります。特に登下校については、交通事故や不審者との遭遇等が心配され、家庭や地域の協力なくして安全確保はできません。子供たち自身の危機回避能力を育成することはもちろんですが、学校・家庭・地域の強靱な見守り体制の構築も、合わせて進めておく必要があります。今後とも首長部局の関係各課とも積極的に連携し、今後さらに充実を図ってまいります。

【Ⅲ 生涯学習の推進】

（１） 「一芸・一スポーツ・一ボランティア」の推進

① 具体的な取組

ア 文化、芸術活動によるコミュニティの推進

イ スポーツを通じた健康づくりの推進

ウ 文化、スポーツ団体への活動支援

② 取組の成果

ア 公民館等を使用する登録団体のうち、町民が過半数以上で構成する団体については、施設使用料を原則免除することによりサークル活動の活性化を図りました。また、活動の発表の場として、文化祭の開催や中央公民館のロビーを活用した展示会を開催するほか、下記の事業を実施することにより、町民の生涯学習活動を推進しました。

【公民館等の登録団体数の推移】

毎年度3月31日現在

項 目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
登録団体数	150 団体	155 団体	154 団体	152 団体

【主要事業の参加者数（概数）】

毎年度3月31日現在

イベント名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
越生町文化祭	3,400人	3,500人	※3,500人	※3,500人
子どもおはやし大会	17 チーム	17 チーム	17 チーム	18 チーム
子どもフェスティバル	700人	456人	462人	416人
生涯学習町民のつどい	123人	189人	300人	180人
町民体育祭	22 地区	22 地区	台風により中止	21 地区
おごせ梅の里コンサート	226人	203人	219人	161人
七つの祝い	56人	63人	68人	58人
越生町人権問題講演会	267人	277人	269人	307人
新成人のつどい	103人	90人	98人	88人
クリーンハイク	51人	雨天中止	61人	中止（新型コロナウイルス感染防止のため）

イ 町民がスポーツを楽しめるよう町民体育祭や各種スポーツ大会を開催するほか、スポーツ団体を支援し、スポーツを通しての町民の連帯意識の向上を目指しました。町民体育祭では、競技種目を見直すことで参加地区の増加に努めました。体育祭は、平成30年度は台風のため中止になりましたが、令和元年度は21地区の参加があり、盛大に開催することができました。また、子どもペタンク教室やニュースポーツとして推進しているラケットテニスの教室を継続的に実施するほか、子どもから高齢者までが手軽に楽しめるラジオ体操実践教室を実施しました。

毎年度3月31日現在

項 目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
体育施設の利用者数	40,687人	41,885人	44,823人	33,884人

ウ 公民館や梅園コミュニティ館では、生涯学習活動を実践している町内の方々を講師として招き各種講座を実施しました。

また、越生町文化協会や越生町体育協会へ活動費の補助を行ったほか、公民館等の利用団体の活動を支援するための備品を購入した。

③ 今後の課題

公民館等で活動するサークルは、高齢化により会員数が減少する傾向にあります。今後もサークル活動が、継続的にできるよう施設の環境整備などを通して、生涯学習の推進に努めていく必要があります。また、スポーツを通じた健康づくりについては、少子高齢化など社会構造の変化に対応した事業を進める必要があります。

(2) 越生が誇る歴史文化の継承と活用

① 具体的な取組

- ア ハイキングのまちと連携した文化財の活用
- イ 郷土の偉人を生かした取組の推進
- ウ 文化財の計画的な保護と継承

② 取組の成果

ア ふるさと歩道解説板の銘板をステンレス製のものに交換するなど、歴史・文化財解説板・標柱の新設、既設物の点検・整備を継続しています。また、ICTを利用した文化財の情報発信をするため、町のホームページに文化財の位置情報や解説文を公開し、随時更新するとともに、文化財解説板・標柱にQRコードを貼り付け、スマートフォンで読み取って現地で必要なデータの閲覧が出来るようにし、内容の補完と充実を図ってまいります。

イ 「生涯学習町民のつどい」においては、「太田道灌の生涯と越生」と題し越生町ゆかりの武将の講演会を開催した。

また、来年度放映が予定されているNHKの大河ドラマ「晴天を衝け」の主人公渋沢栄一ゆかりの渋沢平九郎関連の史跡への案内板等の整備を検討した。

ウ A 町内に所在する県・町指定文化財の所有・管理者、民俗芸能保存団体に對して町費補助金を交付しました。

- ・ 指定文化財等管理費補助 33件
- ・ 獅子舞保存会への補助 4団体

B 埼玉県指定天然記念物「上谷の大クス」倒木撤去及び倒伏対策事業

内部腐朽の進行により分岐幹の1本が倒伏した大クスを保護するために、折損幹の撤去作業と診断調査を実施し、今後の対策を検討しました。

C 越生町指定文化財「越生神社祭典 黒岩町山車」旧状復原修理事業

明治27年(1894)に熊谷で製作、明治42年に黒岩町が購入した山車を、当初と同じ高さまで、安全に鉾上げが可能になるように修復しました。

D 五大尊つつじ園園路整備工事(写し霊場復旧・整備)

「鈴木金兵衛の巡拝碑」(越生町指定文化財)が配列されている「五大尊写し霊場」のうち、風水害やイノシシ害が顕著な四国八十八ヶ所写し霊場について、通路や階段の土留め、補強工事等を実施しました。

E 新たな文化財の指定、登録

- ・ 「**龍ヶ谷の障子岩(断層鏡肌)**」が、令和2年2月21日付けで、埼玉県指定文化財(天然記念物)に指定されました。
- ・ 令和元年11月15日の文化審議会の答申を受け、「**星野家住宅主屋及び袖蔵**」と「**世界無名戦士之墓**」が、令和2年4月3日付けで登録有形文化財(建造物)に登録されました。

F 文化財の普及・啓発

- ・ 中央公民館ロビーに「写真で見る おごせの文化財」コーナーを設置しました。
- ・ 『広報おごせ』の「越生浪漫」に、「越生人物往来」と題し、郷土ゆかりの人物誌を連載しました。

〔指定区分・種類別指定文化財・登録文化財数〕

令和2年5月31日現在

国指定		県指定		町指定		計
重要文化財	2件	有形文化財	7件	有形文化財	21件	59件
登録有形文化財	5件	記念物	10件	有形民俗文化財	8件	
				無形民俗文化財	4件	
				記念物	2件	

③ 今後の課題

本町には、さまざまな有形無形の文化財があります。先人から受け継いだ、これらの掛け替えのない自然・歴史文化遺産を後世に伝えることは私たちの責務です。

しかしながら、有形文化財の防火防犯、史跡名勝天然記念物の現状維持、無形民俗文化財の保存継承など、いずれの文化財も安閑としていられない状況に置かれています。

所有・管理者や保存団体と連携して、計画的な施策を講じることが求められています。

(3) 生涯学習施設の環境整備

① 具体的な取組

- ア 梅園コミュニティ館の活性化
- イ 公民館、スポーツ施設の環境整備
- ウ 図書館サービスの充実

② 取組の成果

ア 運営協議会において施設の利用促進について協議し、ふれあいまつりや各種講座などの事業を実施しました。平成31年3月をもって閉館となった「おごせ昆虫と自然の館」の空き部屋については、1室を越生町立図書館梅園分室として6月に開室し、もう1部屋については、交流室として貸し出しを行いました。

イ 施設の維持管理については、利用者の安全と防火・防災に主眼を置いて、消防、建築設備の法定点検のほかに日常点検を実施し、計画的に修繕や設備更新を実施してきました。限られた予算の中で計画的に修繕し、利用者が安全に利用できよう努めました。

ウ 図書館では、利用者の要求に沿った選書に努めるほか、館内整理時に配架の配置換えと資料の入れ替えを実施しました。また、越生町に関連したおすすめ図書コーナーを設けるなど、適切な資料提供に配慮しました。

事業・講座としては、第1土曜日には「おはなし会」、第3土曜日には「論

語講座」を、第４土曜日には「古文書入門講座」と「本に楽しむ会」を行いました。また、毎年好評の三世代を対象にした「おりがみ教室」のほか、初の試みとして「第１回図書館子どもまつり」を開催し、新たな利用者層の獲得にも資しています。

毎年度３月３１日現在

公民館・図書館等の利用実績	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度
中央公民館の利用者数	１３，５５５人	１４，４４１人	１３，３０３人	１１，０２３人
やまぶき公民館の利用者数	２１，３４３人	２１，１１２人	１９，７８９人	１８，４８８人
ゆうがく館の利用者数	２，３９９人	２，３１３人	２，００１人	１，８２１人
梅園コミュニティ館の利用者数	１，３２８人	１，４１１人	１，７９９人	２，０５６人
町立図書館を利用したのべ人数	１７，１３７人	１６，６３９人	１６，２８０人	１３，３１４人
町立図書館からの図書貸し出し点数	５７，９３７点	５７，１６７点	５８，０１０点	４９，９４６点
町立図書館の町民一人当たりの貸出点数	４．９点	４．９点	４．９点	３．８点
町立図書館の町民一人当たりの蔵書点数	６．６点	６．８点	７．０点	７．４点

③ 今後の課題

各施設とも築３０年以上経過しているため、大規模改修や設備の更新時期が到来しています。災害時の指定避難場所でもあることから、安全性の確保を含めた早期の対応をしなければなりません。

また、図書館の利用促進として、越生町立図書館梅園分室の開室、新規事業の開催等のサービスの充実により、一定の成果が挙げられました。利用者、貸出数を維持していくためには、引き続き、図書等資料の充実とともに、新たなサービスにより利用促進に努めていく必要があります。

5. 学識経験者からの意見並びに提言

I 学校教育の充実

(1) 確かな学力と自立する力の育成

A氏

- ・ 2学期制や土曜日授業の実施で、授業時間をしっかりと確保し、体験活動を充実するなど、特色のある学校教育を展開している。
- ・ 町独自の学級編成の実施や町費学習支援員の配置、A L Tの配置、タブレットP Cの導入などが大変充実しており、児童生徒の学習内容の定着と学習内容の定着と学習意欲の向上が期待できる。
- ・ 小小連携や小中一貫教育の成果を上げているので、今後も継続し、より一層充実していただきたい。
- ・ 積極的な授業研究や研修を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めていただきたい。
- ・ 家庭学習については、時間の目安を設定し、家庭学習の習慣化を図る取組は良いことで、今後も継続していただきたい。

B氏

- ・ 35人学級の実施は、少人数指導やきめ細やかな教育の推進を目指している点で素晴らしいと思う。現在は児童も家庭も多様化しているので、個に応じた支援や指導を行う事ができ、学力向上に効果的だと思う。
- ・ 確かな学力と自立する育成のためには、家庭学習が欠かせない。家庭学習の時間が全体的に増加している。家庭学習をしっかりすることが、自立する力の育成、ひいては学力の向上につながると思う。家庭と連携して、家庭学習の充実をさらに推進されることに期待している。
- ・ 令和元年度は新型コロナの流行により、最後のまとめ、習熟が十分にできなかったのではという心配がある。

(2) 豊かな情操と健やかな心身の育成

A氏

- ・ 不登校の解消やいじめの解消は、喫緊の課題となっている。不登校の解消に向け、関係機関との連携が図られ、成果が現れてきている。不登校ゼロを目指して粘り強く取り組んでいただきたい。
- ・ 道徳教育や人権教育、様々な体験活動等、積極的な生徒指導を通して児童生徒の豊かな心を育てている様子が見える。
- ・ 新体力テストは毎年良い結果であり、日常の体力向上の取組を評価する。
- ・ 学校給食の取組が充実しており、成果を上げている。地場産物の活用が進んでいることは良いことである。
- ・ 学力と同様、小中一貫の教育を今後も継続していただきたい。

B氏

- ・ 越生町の特質を生かした体験活動を続けていただきたい。
- ・ 家庭の学習習慣や生活習慣の定着のために、越生町小中一貫教育のリーフレットや啓発は続けていただきたい。

- ・ 不登校の解消は、多くの市町村で課題となっている。特に長期の休業によって不登校児童生徒の増加が心配される。これからも粘り強く、子どもや家庭に声をかけて、支援を続けてほしい。

(3) 学習環境の整備・充実

A氏

- ・ ICTの整備については、タブレットPCを導入して整備されてきているが、有効活用をお願いしたい。
- ・ サマースクールの取組は。素晴らしい取組である。今後も地域の協力を得て、継続していただきたい。
- ・ 学習環境の整備は他市町村よりも充実していると思われる。今後も計画的に進めていただきたい。

B氏

- ・ 施設整備の改修が計画的に行われているのは喜ばしい。近年はいろいろな自然災害が起こる。子供の安全確保のために、予算に限りがあると思うがお願いしたい。

(4) 教職員の指導力向上

A氏

- ・ 教職員の指導力向上のため、研修がしっかりと行われている。研修により、児童生徒の学力や体力、豊かな人間性の育成に大きな成果を上げている。今後も学校での地道な実践と、教育委員会による指導支援に努めていただきたい。

B氏

- ・ 主体的・対話的で深い学びなど、教育内容等がさらに変容している。ぜひ、これからも、研鑽を重ね、指導力を備えた教職員の育成に努めていただきたい。

Ⅱ 家庭・地域の教育力の向上

(1) 学校運営協議会制度の導入

A氏

- ・ 学校運営協議会制度が正式に立ち上げられ、令和元年度は3回実施された。校長は、委員から様々な意見をいただき、学校運営をより充実させることが大切である。越生町の実態に合った学校運営協議会制度にしていいただきたい。

B氏

- ・ 学校・家庭・地域が一体となった教育の実現のために尽力していただきたい。

(2) 越生町「3つの㊟」の推進

A氏

- ・ 「3つの㊟」の取組は、全体的に高い達成率を示しており、達成状況が伸びている。町として継続して取り組んだ成果といえる。日常生活の中で基本的事項である「3つの㊟」の取組を今後も学校・家庭・地域と連携し、推進していただきたい。

B氏

- ・ 近所の小中学生はよく挨拶してくれる。アンケートの結果からも、高い結果が出ている。これからも、是非続けていただきたい。

(3) 学校応援団活動の推進

A氏

- ・ 学校では、学習や体験活動、環境整備の支援など学校応援団活動が、家庭や地域の協力のもと盛んに行われている。登下校の見守り活動もよく行われている。人・物・予算などの支援を通して、学校応援団活動を推進していただきたい。

B氏

- ・ 学校応援団の活動も定着してきた。学校・家庭・地域が一体となって子供たちの教育に取り組んでいただきたい。

(4) 家庭教育支援体制の充実

A氏

- ・ 教育の原点は家庭にあるわけであるが、保護者の価値観が多様化している。教育委員会や学校が様々な方法で家庭教育を支援しているが、今後ますます家庭教育支援体制の充実を図る必要がある。
- ・ 「越生子ども未来大学」は、様々な体験ができ、満足度の高い取組となっており、成果を上げている。今後も継続していただきたい。

B氏

- ・ 現在は、家庭も多様化している。保護者には、常に情報発信して、学校としての考え、教育委員会としての考えを継続して発信していく必要がある。「家庭生活・家庭学習のすすめ」「より良い学習の進め方」のリーフレットは、基本的な生活習慣や家庭学習習慣の定着のために、有効である。

(5) 児童生徒の安心・安全の確保

A氏

- ・ 児童生徒が安全に登下校できるために、保護者・地域、スクールガードリーダーなどの見守り活動や「子ども110番の家」は効果的である。
- ・ 児童生徒に情報モラルが身に付くよう、引き続き学校・家庭で連携して取り組んでいただきたい。

B氏

- ・ 子供たちの周りには、事故・不審者・災害など、いろいろな危険がある。保護者やスクールガードリーダーをはじめ、多くの方々の協力により、安全が確保されていることに感謝する。
- ・ 子供たちの安心安全のために、速やかな情報発信は大切である。「緊急時連絡メール配信サービス」も整備は有効であると思います。

Ⅲ 生涯学習の推進

(1) 一芸・一スポーツ・一ボランティアの推進

A氏

- ・ 「一芸・一スポーツ・一ボランティア」の合言葉は、わかりやすく、実践してみたい言葉として定着している。
- ・ 施設使用料の免除、イベント開催、教室・講座の開催、文化・スポーツ団体への活動支援などを通して、生涯学習の推進に努めている。

- ・ 少子高齢化により活動への参加の減少が見られる。今後、イベントや公民館活動、スポーツ活動に手軽に参加できるよう、時代のニーズにあった施策が望まれる。

B氏

- ・ 少子高齢化社会であるが、活発に活動できている。「一芸・一スポーツ・一ボランティア」を合い言葉に生涯学習が推進できるように、各年齢層の要望に応えた事業の充実に期待する。

(2) 越生が誇る歴史文化の継承と活用

A氏

- ・ ハイキングのまちとの連携では、文化財解説板、標柱の整備やICTを活用した文化財の情報発信は、町民の郷土に対する理解と関心を深めるとともに、町を訪れる人に文化財を知っていただく良い機会となっている。

B氏

- ・ 町内には有形無形の文化財が沢山ある。本年度は3件の文化財の指定、登録がなされた。指定文化財の保護の補助金の交付、修復、環境整備、普及・啓発、ゆかりの人物を通した郷土意識の涵養など、様々な取組を行っている。今後も文化財保護行政を推進していただきたい。

(3) 生涯学習施設の環境整備

A氏

- ・ 梅園コミュニティ館の利用者が年々増加している。図書館分室や交流室も整備されたことにより、今後、更なる活用が期待される。
- ・ 公民館やスポーツ施設の老朽化に対応した改修や設備の更新を計画的に行っていただきたい。
- ・ 図書館では、新規事業の開催等の図書館サービスの充実による利用促進に努め、一定の成果を上げている。今後も利用者、貸出数の維持・向上に向け、図書等の充実とともに、サービスの充実に努めていただきたい。

B氏

- ・ 図書館梅園分室の開設など、あと少し広報すると良い。利用者の要求に答え、生涯学習の拠点として、さらにサービスの向上に努力されることを期待する。

令和元年度越生町教育委員会事務局
点検評価報告書

令和2年8月

編集・発行

越生町教育委員会

埼玉県入間郡越生町大字越生 917 番地

電話 049-292-3121 (代)

Eメール kyouiku1@town.ogose.saitama.jp